八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP: http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2016年4月27日
第２３１号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

熊本地震に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます

平成二十八年熊本地震発生

四月十四日（木）午後九時二十六分頃熊本県熊本地方を震源とする地震があります。気象庁によると、熊本県益城町で震度７、熊本市や玉名市などで震度６弱、菊池市などで震度５強、各地で震度４を観測しました。震源の深さは約十一キロ、地震の規模を示すマグニチュードは６．５と推定されます。

また、十六日（土）午前一時二十五分頃には震度７、マグニチュード7.3の大地震が南阿蘇で発生しました。

十四日に発生したのは前震となり、今回の地震を本震と訂正されました。

一九二三年の観測開始以来 九州で震度７を観測

福岡管区気象台によると一九二三年の観測開始以来、九州で震度７を二度も観測したのは初めてのことです。

家屋倒壊や余震が続く中で、津波の発生はありませんでした。

地震に伴う大規模な土砂崩れが起きた南阿蘇村では斜面崩壊や阿蘇大橋の崩落、大学の寮の倒壊などで多くの方々の安否が不明となりました。

熊本城で重要文化財など 十三の施設に被害

熊本市内で熊本のシンボルである熊本城の天守閣の屋根や武者返しの石垣が崩壊し、重要文化財の十三の施設に被害が出ました。

余震が続いてる中で、被害の拡大は計り知れません。

熊本城が地震前の状態に戻るには二十年はかかるそうです。

震源地が南西は、熊本県八代市付近にも達し、北東側では大分県まで拡大しています。

これで終わったわけではなく、余震や雨による二次災害への不安が高まっています。

行方不明者の捜索には、全国から警察や自衛隊員の応援を得て二十四時間体制で行われています。

地震発生から十日以上たちますが、二十五日現在地震による死者数四十八名、行方不明者は二名となっています。

今回、余震が続くため、自宅や避難所の建物の中で休むことが怖くて、車中泊をする方が多く、エコノミークラス症候群（急性肺血栓塞栓症）など震災関連死によって亡くなられる方が出ました。

エコノミークラス症候群を予防するために軽い運動を

また疑われる方が、多数の出ており、注意を呼び掛けています。

気象庁によると十四日の夜以降、熊本・大分両県で起きた地震発生回数（震度１以上）は二十五日午前九時現在、八八二回に上っています。

九州新幹線の全線開通はめどが立ちませんが、一部のみ開通しています。

また、九州自動車道も一部通行止めのために、支援物資が避難者の方へ届かない状態が続いています。

政府は、国が備蓄している物資を自衛隊が直接避難所へ輸送する活動を開始しました。

北九州市で 被災地支援の動きが始まる

北九州市は、地震から一夜明けた十五日から被災地支援の動きが始まりました。

給水車三台と救援物資を積んだトラック二台と職員四名、水道関係の民間業者八名の計十二名が熊本市に派遣されました。

十七日には保健師四名を派遣し、十八日には熊本市へ送る市民や企業からの救援物資の受入れを小倉北区の総合保健福祉センター（アシスト21）六階の情報センターにて始めました。

受付時間は午前十時から午後四時まで、受け入れるものは飲料水・アルファー米・缶詰・ウェットティッシュ・おしりふき・生理用品・紙おむつ（大人用・こども用）トイレットペーパー・粉ミルク・歯ブラシ・歯磨き粉・ペットフード・ベビーフードなどですが、詳細は北九州市のＨＰにてご確認ください。（未開封・未使用・賞味期限内の物に限ります）

（裏面へつづく）

新日鐵住金八幡労働組合様より 物品を寄贈していただきました

「さわやか」の八幡事業所と小倉事業所はそれぞれ新日鐵住金八幡労働組合様より寄贈品を頂きました。

新日鐵住金八幡労働組合様は社会貢献の一環として毎年一ヶ所の小規模作業所に物品の寄贈を行ってきました。

今年は、七十周年の節目の年にあたり、北九州市内の十ヶ所の事業所に物品の寄贈を行うそうです。

その中で、北九州市社会福祉協議会様より「さわやか」の八幡事業所と小倉事業所を推薦していただき、今回寄贈を受けることができました。

新日鐵住金八幡労働組合の書記長増田隆男様がおみえになり、八幡事業所では四月五日（火）にノートパソコン一式を寄贈していただき、その贈呈式がありました。

また、小倉事業所においても四月十五日（金）にプリンターとシュレッダーをいただきました。

大切に使わせていただきます。

ありがとうございました。

「熊本地震」で被害を受けた透析患者の現況

四月十四日、十六日に起こった熊本地震による透析患者さんの状態について（一社）全国腎臓病協議会の災害対策本部と熊本県腎協からの情報をお知らせいたします。尚、この情報の発信日時を記載しておりますが、災害情報は刻々と変わりますことをご理解ください。（四月十八日現在）

熊本・大分地震の被害状況について

（四月十八日現在）

（一社）全国腎臓病協議会の災害対策本部

熊本市の断水は、十八日中の復旧をめざし試験的な通水が昨日から始まりました。しかし、県内では、少なくとも二十の市町村で依然として断水がおきており、給水車による給水活動が行われています。

「日本透析医会災害時情報ネットワーク」によると、十八日十六時三十分現在、熊本県内で透析ができないのは十八施設（前日二十二施設）になりました。

厚労省が十七日夜に発表した資料によれば、透析ができない施設の患者数は、県内で約千八百人（十七日二十一時現在）、透析は、県内の他の施設での受け入れにより、ほぼ県内で対応できているとのことでした。

状況の悪化に備え、十八日には熊本市内の病院の患者十名が福岡県内の病院に移送が予定されているそうです。

なお、厚労省は十六日付けで、全国の都道府県に対し、被災地からの透析患者の受入れ透析施設や宿泊の確保などの配慮・協力を依頼しました。

また、大分および宮崎県腎協から、十六日未明の地震により、同県内の一部の施設で断水等の影響をうけ、十六日の透析は、給水車により透析を行ったところ、一律四時間限定の透析で対応したとの情報が寄せられています。

いずれも今日は通常通りの透析が出来ているようです。

現在、熊本県内の透析施設八〇〇施設のうち一〇〇施設が透析不能となっています。

ライフラインも徐々に回復しつつありますが、一日も早い復旧復興を願うばかりです。

熊本県腎臓病患者連絡協議会事務局より発信

十七日から、熊本県透析施設協議会のお力で、一部の透析施設へ自衛隊から水の配水が行われ、透析が行われていますが、給水車等が少なく順番待ちです。

透析時間は、短時間透析（二～三時間）です。その他の施設の患者も、多くが郡部の施設で、朝六時～夜九時の間の臨時透析に、出かけています。郡部の施設の透析終了後、透析室を借りての二クールで、短時間透析です。

阿蘇市及び南阿蘇村と熊本市との幹線は、遮断されていますが、電源車が透析施設に配置され、透析が可能になっています。

熊本・大分地震の被害状況について

（四月二十日現在）

（一社）全国腎臓病協議会の災害対策本部

県組織の会員さんをはじめ、全国の患者や家族、企業などから、熊本・大分地震で避難生活を送る患者にむけたお見舞いや応援の声が多数届いています。

四月二十日（水）までに集まった熊本・大分地震の状況をお知らせします。

◎熊本県腎協より、「コンビニなどに物資が入ってくるようになり、少しずつ落ち着きつつある」と様子が伝えられてきました。

（十九日現在）

◎福岡、長崎、大分及び宮崎の県組織からは、熊本から避難してきた入院患者等を県内の透析施設で受け入れている情報が寄せられました。

◎厚労省のとりまとめた情報によれば（二十日十四時現在）、透析が出来ない施設数は九施設（うち、建物や機器の破損が六、透析の水不足が三）、その施設の患者数は約五〇〇人、とのこと。一部県外の施設での受入れを除き、透析用の水の確保、県内の他の透析施設での受入れ等により、県内で対応できていることが報告されています。

さらに、安定的な透析用の水の供給等にむけ、透析施設と自治体や自衛隊との橋渡しなどの対応を行っているとのことでした。

（表面よりつづき）

また住宅支援として北九州市営住宅と北九州市住宅供給公社は、被災者の一時的な避難場所として無償提供することを決め北九州市のHPで案内を始めました。

それから被災した熊本市動植物園からアムールトラ一頭を到津の森公園に当分の間受け入れると発表しました。

現地で余震が続いており、トラの安全確保などのためだそうです。

五歳のメスで名前は「チャチャ」と言います。

二十三日に到着予定で一般展示の予定はないそうです。

警視庁は十四日の地震発生以降、被災地にある民家や避難所で空き巣や置き引きなど計十七件（二十一日現在）の被害が出ていることを明らかにしました。被災者が避難中の民家が狙われるケースが多く熊本県警は注意を呼び掛けています。

（読売・朝日新聞より一部抜粋）

北九州市より熊本へ救援支援

四月十九日（火）北九州市役所正面玄関前で、平成二十八年熊本地震に対する災害支援の物品を乗せた、北九州市交通局の市営バスの出発式がありました。

北橋市長は、熊本の地震により災害に遭われた皆さんのところへ安全に一刻も早くこの救援物資を届けてほしいと話されていました。

バスの座席一杯に乗せられた飲料水や毛布、粉ミルクなどの救援物資は、市内の約三百三十の個人や企業の方々から送られたものです。

北九州市交通局の二人の運転手さんと障害福祉課の職員を乗せたバスは、北橋市長の出発の合図と、多くの市職員の見送りのなか、十一時四十分に熊本市の「うまかなよかなスタジアム」に向けて走り出しました。